

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 無形民俗文化財伝承事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局 文化伝承課 伝統文化係

電話番号：058-272-1111 (内 3579)

E-mail：c11148@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 11,500 千円 (前年度予算額：2,200 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,200	0	0	0	0	0	0	0	2,200
要求額	11,500	0	0	0	0	0	0	0	11,500
決定額	11,500	5,750	0	0	0	0	0	0	5,750

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・無形民俗文化財の保存・振興を図るため、地域の団体（地歌舞伎、文楽・能、獅子芝居の3団体）が行う事業に対して支援を行う。
 - ①飛騨・美濃歌舞伎大会 ②地歌舞伎伝承教室 ③岐阜県文楽・能大会
 - ④文楽・能伝承教室 ⑤岐阜県獅子芝居公演 ⑥獅子芝居伝承教室
- ・飛騨・美濃歌舞伎大会は、令和2・3年度のみ「地歌舞伎勢揃い公演」として実施するため一時的に減額したが、令和4年度より再開する。
- ・地歌舞伎伝承教室は、平成30～令和3年度まで「地歌舞伎担い手育成支援事業」として集中支援していた。令和4年度より本事業として再開し、国民文化祭に向けて拡充支援を行う。
- ・全国的にも地歌舞伎が盛んな本県においても、過疎化や少子・高齢化に伴う地歌舞伎の担い手不足は大きな課題となっている中、新型コロナウイルス感染症の影響によって、昨年度及び今年度の大会や公演の多くは中止となった。稽古すら実施できない状況は、伝統ある地歌舞伎の衰退に繋がりがねない。
- ・コロナ禍の影響を大きく受けた獅子芝居の伝承教室へも支援を拡充する。

(2) 事業内容

- ・無形民俗文化財、特に本県ゆかりの民俗芸能の保護・保存・振興のための事業に対して補助金を交付する。
- ・補助対象者は県域レベルで活動する民俗芸能の保存・振興団体とする。
- ・補助対象事業は、上記団体・市町村が行う民俗芸能の振興及び保存・伝承のための事業で、知事が適当と認めたものとする。
- ・大会は年1回、県内各地の団体が集まって開催されるもので、県民の認知度が高まっており、今後も開催できるよう支援を継続する。
- ・伝承教室には、若手後継者育成を推進するための長期にわたる支援が必要。本事業による伝承教室によって、不足している太夫・三味線師等、芸能を支える後継者が育ってきている。地歌舞伎伝承教室は、伝承教室を行う保存会や参加者も増加している。
- ・補助額は定額。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・各団体、事業ごとに加盟団体数、総事業費、収入状況等が異なるため、一律に補助金額を決定できない。よって、公平性の観点から以下のとおり補助額を決定。
- ・適切な民俗芸能の保護（後継者育成・公開、記録保存）や振興に要する経費について、全額補助する前提で、市町村負担金や会費などの特別な収入を差し引いた額としている。（定額補助）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	11,500	大会補助（地歌舞伎、文楽・能、獅子芝居） 伝承教室補助（地歌舞伎、文楽・能、獅子芝居）
合計	11,500	

決定額の考え方

財源については、地方創生推進交付金を充当します。

県単独補助金事業評価調書

記入しない項目欄は斜線を引いてください。

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	無形民俗文化財伝承事業
補助事業者（団体）	岐阜県地歌舞伎保存振興協議会及び大会実行委員会 岐阜県文楽・能保存振興協議会及び大会実行委員会 岐阜県獅子芝居協議会及び公演実行委員会
補助事業の概要	年1回開催される各大会への支援・後継者育成を推進するための伝承教室への支援
補助率・補助単価等	定額・定率・その他 （内容）地歌舞伎大会 1,100・地歌舞伎伝承教室 4,800・文楽能大会 900・文楽能伝承教室 1,000・獅子芝居公演 300・獅子芝居伝承教室 500 （理由）適切な民俗芸能の保護（後継者育成、公開、記録保存）・振興に要する経費について、全額補助する前提で、市町村負担金や会費などの特別な収入を差し引いた額としている。
補助効果	・伝承教室によって自前の太夫や三味線師が成長してきており、各保存会の伝承機運の高揚に大きく貢献している。 ・大会は県域を対象とし、異なる圏域の保存会が一堂に会する唯一の大会として県民の間に認知され、観覧者数も多く、県外の観覧者も見られるなど、会場がほぼ満員になる状況が続いている。
終期の設定	終期 R6 年度 （理由）県内の貴重な民俗芸能を保存・振興を図るため。後継者を指導する人材の育成を図るため。

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか

県内各地に脈々と受け継がれている貴重な民俗芸能を保存するため、大会や伝承教室等を通して、後継者を指導する人材の育成を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H17)	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R6)	
					達成率	
① 伝承教室の総受講者数及び大会来場者数	975 人	556 人	4,000 人	8,000 人	8,000 人	7.0%

	H30 年度	R 元年度	R2 年度
補助金交付実績	3,300 千円	3,200 千円	2,200 千円

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 <p>伝承教室では、新規に参加する県民も見られる。また、実施する保存会も増えている。2年度は新型コロナウイルスの影響で大会等は中止となった。地歌舞伎伝承教室は別事業で実施。</p> <p>指標① 目標：8,000人 実績：556 達成率：7.0%</p>
令和	<p>令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>
令和	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断）</p> <p>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>岐阜県は全国有数の地歌舞伎保存団体数を有している他、文楽・能や獅子芝居の公演活動も活発に行われており、事業の必要性は大きい。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）</p> <p>3：期待以上の成果あり（単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり）</p> <p>2：期待どおりの成果あり（単年度目標100%達成）</p> <p>1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標50~100%）</p> <p>0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標50%未満）</p>	
(評価) 2	<p>大会来場者数は会場の規模によるため年度毎に増減はあるが、毎年ほぼ満員の状況である。文楽・能伝承教室の参加者は毎年延べ2,500人を超え、年々増加しており、令和元年度は3,000人に迫る実績であるなど、事業効果が大いにあらわれている。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）</p> <p>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	<p>伝承教室や大会への必要経費について、保存振興団体で検討し、伝承教室に係る経費に重点を置くなどの確認をした。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響のため、令和2年度はすべての大会とほとんどの地元公演が中止、令和3年度も文楽・能大会や多くの地元公演が中止となり、伝承に係る取組みも実施できない状況である。この間に大切な伝統芸能等が途絶えてしまわぬよう、支援が必要。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>後継者育成には非常に長い年月が必要であるため、大会や伝承教室等は絶え間なく続ける必要がある。よって、本事業は継続していく必要がある。</p>
